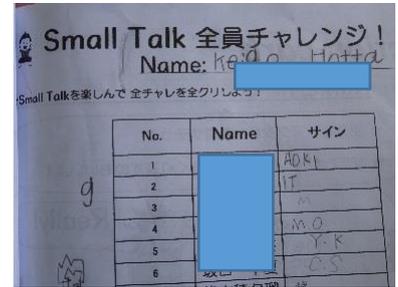


全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	6年 外国語科（9月） New Horizon Elementary Unit 4 7h/8h 扱
③言語活動の充実を目指した授業づくり	佐賀県伊万里市立立花小学校6年担任 大石 由紀

夏休みの思い出を伝え合おう～中間評価を生かしたやり取りの充実

本学級では、1学期のスマールトークの中でクラス全員と話す「全チャレ」を行った。友達と話した後にサインをもらう活動で、子どもたちは、意欲的に取り組むことができた。しかし、「全チャレ」クリアのために相手の思いや考えをしっかりと受け止めないまま、次の友達のところへ行こうとしたり、友達のサインだけをもらおうとしたりするような機械的なやり取りが行われるような場面もあった。



そこで、本時は Unit 4 “Summer Vacations in the World”で学習したことに既習事項を加えてやり取りを行うことにした。中間評価は2回行い、徐々にレベルアップできるようにした。

【中間評価1回目】

本単元で学習した表現の確認やいつも共通理解している挨拶や表情などの態度面を中心に中間評価を行った。

<p>C1: “How was your summer vacation?” C2: “It was exciting.” C1: “Nice! Why?” C2: “I went to the sea. I enjoyed fishing.”</p>		<p>C3: “How was your summer vacation?” C4: “It was boring.” C3: “Oh sorry. Why?” C4: “I stayed at home. I enjoyed games.”</p>
--	--	---

【中間評価2回目】

相手が話していることを確認するリアクションや質問をすることを中心にフィードバックを行った。既習事項の中に使える表現はないか考えながら会話を広げるように指導した。

<p>C5: “I ate ice cream.” C6: “Oh! Me too. What flavor?”</p>		<p>C7: “I saw sazae.” C8: “Delicious?” C7: “No. I saw sazae.”(ジェスチャーあり)</p>
--	--	---

上記のやり取りの内容は、単に覚えたフレーズを言い合うのではなく、互いの内容を聞き取っているからこそそのやり取りである。つまり、意味のやり取りが行われていることが分かると考える。多くの児童とくり返し自分の言いたいことを話すことで言い慣れることは確かであるが、覚えているフレーズを延々と言うだけに留まるのではなく既習事項をどこかで使えないだろうかと思いを働かせるような指導を行ってほしい。

慣れ親しんだフレーズを単に言い合うのではなく、自分が言いたいことを選んで伝え、相手の思いや考えをしっかりとキャッチする意味のやり取りを重視しています。「楽しかった!」「実は退屈だった」という言葉にのせた友達の思いもしっかりと受け止めることが大切だと考えます。



指導助言・アドバイスコナー

新学習指導要領における外国語活動及び、外国語の目標には、「言語活動を通して」と記されています。「言語活動」とは、「小学校研修ガイドブック 外国語活動・外国語」(2017年 文部科学省)によれば、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」を指しますが、この「言語活動」そのものだけでなく、「通して」の部分の理解も併せて大切です。つまり、言語活動に取り組ませるだけでなく、取り組ませた後どのような指導をするか、そしてその指導を生かしてまた言語活動に取り組ませることが大切です。本実践では、その部分を「中間評価」としていますが、「中間指導」と呼ぶこともあります。本実践の2回目で行っている指導、つまり態度面ではなく、「既習表現の中に使える表現がないか考えながら会話を広げる」指導こそが大切です。どのような場面でどのような既習表現を使ったのか、どのような質問をしたのかを取り上げ全体で共有し、「言語活動を通して」子供達に力を付けていくことが大切です。

(文部科学省 視学官 直山木綿子)